



平成29年(2017) **12月定例議会** No.68



平成 30 年 1 月 11 日 一面銀世界となったテクノパーク公園

調査特別委員会からの報告	Р 3
常任委員会からの報告	····· P 4 − 5
一般質問9名が町政を問う	P 6 −14

正後の平成29年度 般会

第4回 定例議会

給与に関する条例等の一部改正及び、

|事請負契約の締結などの審議をおこない全議案とも

日間

の日程で開催した。

平成29年度 般職

般会計補

正

予算

成29年第4回

定例議会を平成29年12月

12 日

から

8

職員のベースアップ

及び特別会計補正

予算や一

の職員

任期付職員

0

災害復旧に係る

平成29年度 般会計補正予算

可決同意した。

増額、 0円、 画整理事業などの起債の 2億円、熊本地震復興基 通交付税の決定による 000円となる。 れ472億1462万6 増額し、歳入歳出それぞ 2930万7000円を の基金繰入れる億円など 金17億4876万800 む熊本地震復興基金交付 金に係る創意工夫分とし て17億3900万円を含 正予算は、歳入歳出23億 歳入の主なものは、 県道整備や土地区 財政調整基金から 普

3500万円などとなっ ている。 地区画整理事業負担金 中央被災市街地復興土 1億320万円、 備の県道整備事業負担金 金1290万6000 被害復旧支援事業補助 付費3748万2000 伴う障害者介護訓練等給 の積み立て、利用者増に 金17億3900万円全額 分された熊本地震復興基 事異動や給与改定に伴う 人件費、創意工夫分で配 益城中央線等街路整 農業施設等の台風 益城

条例の一 部改正

となっている

する条例の 般職の職員の給与に関 人事院勧告に基づき、 一部改正

歳出の主なものは、 げる。 もに、 差を是正するため給与表 b の水準を引き上げるとと 勤勉手当も引き上

平成29年度一般会計補

なる。 偶者扶養手当が1万円 8000円から1万円に の扶養に対する手当が から6500円に、 扶養手当の改正は、 子 配

制定 0)

して、 援の財源として活用して かなニーズに対応する支 に向けた住民へのきめ細 間である10年間をめどと 基金17億3900万円を 益城町復興計画の計画期 本町に交付された復興 本町の復旧・復興

般職の給与改定を行う ので、民間給与との格

害公営住宅業務を集約す 既存の公営住宅業務と災 どが立ったことを受け、 的に環境衛生課を廃止し ることにより、 が99%を超え、完了のめ いた損壊家屋等の解体率 公営住宅課を新設する。 一元化を図ることを目 環境衛生課で担当して 公営住宅

いる。

かったこともあり見送っ

条例を制定する。 28年熊本地震」復興基金 いくため、益城町 「平成

るためのものである。 民間との給与格差を是正 院勧告の趣旨に基づい 一般職員等の給与改 定については、 て、

る 同規模の周辺自治体と比 95・7と低い状況にあり、 家公務員の給与を100と 2300万円の支出増とな てもかなり低い状況にある。 した場合、比較するとラス イレス指数においては、 今回のベースアップで約 本町の一 般職の給与は 民間企業の調査ができな 出増となるのか。 アップで年間どの程度の ころである。今回のベース 解してくれるか心配すると あるが、町民の皆さんが 勧告を受けてのことでは 昨年は熊本地震により、 については、人事院 人事

文化会館第2駐車場と木山交差点土地交換に関する調査特別委員会報告

町が行った土地交換は法律違反の疑いが と判断せざるを得ない 極めて高い

特別 報告された報告書 12 本報告は、 である。 委員会から議会に 会 で、 調 0) 查

調査特別委員会設置の経緯

を行った。 予算が提案されたが、 第2駐車場との交換」 近の民有地と益城町文化会館 説明することなく土地の交換 年10月29日、 確として否決。 臨時議会で「木山交差点付 平成27年6月議会及び7月 90 万円の補償費等 議会や町 しかし を前提 根 町は 拠不 民に 0

出され、 置された。 平成27年12月議会で疑義が 調査特別委員会が設

調査実施の)概要

は、

平

成

29

年

を 15 回 は 熊本地震により1年半の中断 中 3人に証 人17人に聞き取り調査、 あったが、 、長に竹上議員、 村議員、 査特別委員会にお 平成27年12月25日の第1 開催 人尋問を行 寺本議員を選出 調查特別委員会 その間、 副委員長に った。 13 て、 証 委 口

土地交換で益城町の 調査の結果

り損害は

文化 。 ㎡として鑑定、 それに基 会館 第 m^2 2 Â ㎡を提供 駐 地 + 車 B В 場 ()

0) みで鑑定

土 づき国道沿い及び町道沿 を1筆として、2万350 2 3 2 7 5 9 し、出入り口のない土 町に残され 地1958.59 交換されたA地 益城 交番 \pm 道 4 Α 4 た。 提供された土地 3 1958. 59 m² 号

B (369 ㎡) 残された土地 里道整備~ ···· (500万円) 交換 町

地震発生

証人尋問再開

経過の概要

IH26年12月

IH27年1月

6月及び7月

IH29年10月

2月 5月

10月

12月 H28年1月

4月

12月

民有地購入を拒否される 町長が町有地との交換を示唆 | 町課長と仲介業者と交渉 | 補償費900万円が請求される | 900万を議会で 2 回否決 土地交換契約を締結 | おき | は対象を始める

1年半中断

定例議会で調査結果を報告Ⅰ

参考人招致を始める

逸脱ではないか 途廃止は町 長裁

たが、 政財産」 長権限として用途を変更 文化会館第2駐車場を 同 から .駐車 場の |普通財産| に 年間使用 行 実

96 条 で

いう議会の議決事

項

該当せず、

町長の裁量権

脱 は

乱用には当たらな

3 費が必要となり、 ばならず、 る場合、 失、さらに出入り 与えるおそれがあった。 町に約1100万円の損失を された土地を利用しようとす 地全体で約 すると2万6500 000円 里道整備をしなけれ 500万円の整備 6 m² 0 0) 0万円の 合わせると 差額で、 \Box 一のない 円 $m^{\!\!\!\!2}$ 捐 残 Α

遅反していないか 益城町の条例(交換)

は言 公用・ らず、 県から購入の要請や具体的な 条例にある「本町において、 か不明である。このことから 後いつ交差点改良ができるの いという希望的な段階で、 交差点改良計画も示されてお 点は県道で県の所轄であ する町の条例」を根拠に土地 町長は 交換を行ったが、 い切れない 公共の用に供する」と 町として将来実現した 「財産の交換等に 木山 る。 交差 今 関

こと

されている。 長の担当事務 を取得し、管理し、 普通公共団体の長は とあ ŋ 土地取 (権限) 処 得は 分す 規 財 町

また土地の交換は 町 0) 条

見落 があると判断 績も調査せず、 238条に違反してお 有効に使用されて 方自治法第237 裁量権の逸脱乱用 使用や地 とされてい 元の各種行 特に大型 た。 いた事 条 n, 0 及 れ 疑 実 事 バ 町 び は

けて以下の結論を得た 顧問弁護士の指導を受

とから、地方自治法及び町 例に違反している疑いが に説明なく用途を変更し 会館第2駐車場を議会や住 地交換契約は え」「町条例に違反し」 今回、西村町長が行った土 「町に損害を 文化 たこ

て高いと判断した。 部委員の意見

任委員会 レポ

12月議会

総

務

復興 3 9 用は 入基金万円 基金17億 0

いては全会一致で可決 重審査の結果4件につ 部より説明を受け、慎 算外4件について執行 益城町一般会計補正予 付託された平成29年度 総務常任委員会では 1件は賛成多数で

時に使う3つの機能を められた際、救助する 質疑に対しては、 税があるため震災以前 の事故で車中に閉じ込 700万円についての 工作車用器具購入費 た。また、消防署救助 いるとの説明があっ よりも交付税が増えて では、地方交付税の中 で震災による特別交付 て、一般会計補正予算 審査の主な内容とし 車等

> るため、 は少ないとの説明を受 町の持ち出し

震災遺構仮保存業務

問があり担当課長から 委託料等についても質 負担がないなど詳細な 全額復興基金により町 説明を受けた。

まで待つべきではない 部の委員から来年3月 がら担当課長から詳細 自治体の状況等につい 制定については、近隣 かとの意見が出された。 な説明を受けたが、一 て、一覧表を提示しな の給与に関する条例の 部を改正する条例の 益城町一般職の職

> 祉 福

般会計補正予算外

被災者に寄り添った支援を継続 の説明を受けた。

視察した現場のうち、

求するとの説明を受け 保連合会へ委託し、第 損害賠償請求事務を国 金についての質疑があ た。また、一般被保険 計では第三者損害賠償 三者である加害者へ請 国民健康保険特別会 第三者行為による

用をお願いしていくと それ以降も継続して借 向で検討している。ま 杭は撤去せずに残す方 用を抑えるために基礎 の撤去や費用負担につ 館の解体に伴う基礎杭 決することに決定した された議案について、 無償で借用しているが た、「とんとん」につ いての質疑があり、費 のとおり全会一致で可 慎重審査の結果、原案 執行部から説明を受け 末までJA益城支所を いては、平成30年3月 4件、当委員会に付託 議案第8号について 地域ふれあい交流

減債事業債が適用でき

既に出している53事業 協議が必要な事、県が

入であり、

緊急防災・

持った器具セットの購

使い道に関して県との

いての質疑に対し、

3900万円の運用に

また、復興基金17億

当課長より説明を受け していた一部負担金免 ての質疑があり、当初 者診療報酬の増につい 長した影響であると担 除期間を9月末まで延 -成29年2月末までと

所及び施設老朽箇所の

指定管理者より被災箇 いては、現地において 益城町町民憩の家に

を確認した。

説明を受け、

復旧状況

明を受けた。 は町負担になるとの説 今年度と同額程度と考 修繕費などの費用負担 いては災害に伴う補修 えている。修繕費につ 委託費は最安値である について質疑があり、 憩いの家の委託費や

明を受け井戸ケーシン 明を受けた。 事が予想されるとの説 あると確認した。復旧 ラの診断で10m付近で グの破損箇所が、 池災害復旧箇所を視察 にあたり湧水等で難工 した。担当職員より説 については、 益城町水道センター 第3水源 カメ



水道センタ -第3水源池復旧状況

常任委員会レポ

12月議会

えるのか、

求められる

以外にどんなことに使

建設経済常任委員会

など、以上5か所を視

創意工夫とはどんなこ をしたいとの事であっ とか検討し、有効活用

28160枚のパネル 太陽光発電所工事現 視察した下小谷地区 2100世帯分の では、 完成すれ 敷地 0 m² K 面 九 であった。 能となり、

積 9 電工

が設置され、

見込め、 説明を受けた。 1日運用開始予定との 1年間の電気の供給が 平成30年8月

業で施行することが可 おいて被害状況を確認 況については、 やすくなったとの説明 造成地滑動崩落防止事 負担のない大規模盛土 杉堂地区災害復旧状 担当課より受益者 事業が進め 現地に

会一致で可決した。

(仮称)



杉堂地区災害復旧状況

建設経済

年度益城町一般会計補 では付託された平成29

高齢者等に配慮した災害公営住宅の建設を

5万円の使途について り協議会運営補助金

対し補助するものとの は各協議会の事務費に を受けた。同じく都市 地交渉のためとの説明 る県外の地権者への用

計画総務費のまちづく

先行買収に係る土地も 業務委託料において、 土地区画整理事業測量 都市計画費の益城中央 説明を受けた。また、 査するよう提案があっ 含め区域全体を一筆調

を受け原案の通り、 執行部より詳細な説明 設経済常任委員会関 正予算(議案第86号建 外4議案について

土地区画整理事業に係 増額補正は、益城中央 務費について質疑があ 議案第86号都市計画総 審議の中で委員から 120万6千円の 蕉線災害復旧工事現場 堂地内の町道城ケ峰芭 の3か所、 公共下水道 (砥川、

明を受けた。 伴うものであるとの説 は給食センター建設に 質疑があり、 更業務委託料について 費の下水道認可区域変 については公共下水道 公共下水道特別会計 区域変更

災害公営住宅建設予定 現場視察においては 福原、田原 上陳地内の (特環) 杉

全

うに要望した。 新しいコミュニティの 後の工程について説明 定地では建設戸数や今 安全管理を徹底するよ 工事中の現場において 形成や高齢者等に配慮 を受け、整備の際には したものにすることや、 災害公営住宅建設予 歩行者等も含めた



復興住宅予定地の視察状況(福田地区)

次期町長戦への 出馬の決意はいかがか

私の力を全力でささげることを約束し 2 期目への挑戦の決意とする

とができた。



みはる議員 坂田

坂田 が元気に笑い合えるまちづく らはや3年8カ月がたとうと 補され、当選を果たされてか りの実現をスローガンに立候 町 長一期目の総括は 町長は、

町民の皆さん

している。

り組まれ公表されたことは青 検証作業を就任1年目から取 えて、町長になられての1期 ない。そのようなことを踏ま 運営は大きく違ってきている 災後の2年では当然その町政 ものは、 かし、1期目の4年間という 任感の強さを表している。 されなかったマニフェストの うち四つについては就任2年 括されるか伺う。 目を自分なりにどのように総 れていると言っても過言では 番厳しく、激動の時を過ごさ おそらく歴代町長の中では一 歴代の町長ではどなたも実施 以内で実行に移され、特に 町長就任後、六つの公約の 就任以来の2年と震

激動そして決断 言葉に尽きる 0

町長

就任1年目は、

これから仕上げに向かう3年 助、住宅リフォーム助成制度 2年目では、マニフェスト推 施、 支援により難局を乗り切るこ 襲った。震災直後は大混乱で 目に震度7の激震が益城町を などを実施してきた。しかし、 やインフルエンザ予防接種補 長室の開催、保育料の見直し 進計画に基づき、どこでも町 程を明らかにするマニフェス 化推進による企業誘致の実 のエアコンの整備、6次産業 防災訓練の実施、小中学校へ との思いで町長給料10%削減 別事業の取り組みに対する基 あったが、全国からの温かい ト推進計画を公表した。就任 できるものはすぐにでもやる 仕組みづくりに着手し、 1期4年の取り組みや行

災者を入れなかったことや、 られ、私自身は的確に判断で き置き場の早期設置、避難所 梅雨前のテント村撤去、がれ きたと確信している。 の閉鎖など数多くの決断に迫 合体育館メインアリーナに被 震災後は決断の日々で、総

たことを包み隠さず町のホー 了し、できたこと、できなかっ 今回の震災の検証も既に終

> そして決断の言葉に尽きると ムページで公表している。 1期目を振り返ると、激動

長選挙出馬の決意は 一興を成し遂げるための

きた国や県との信頼関係や絆 震災後、町長自らが築いて

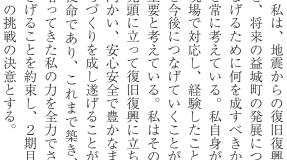
町長選挙への出馬の決意を伺



向かい、安心安全で豊かなま 先頭に立って復旧復興に立ち 重要と考えている。私はその を今後につなげていくことが ちづくりを成し遂げることが 現場で対応し、経験したこと を常に考えている。私自身が さげることを約束し、2期目 培ってきた私の力を全力でさ 使命であり、これまで築き なげるために何を成すべきか を、将来の益城町の発展につ

被災前の木山の町並

果たせるのは西村町長のほか 要不可欠となる。被災地から の生の声を国に届ける役目を る場面で国や県への要望が必 いものであり、 し遂げるためなくてはならな は、益城町が復興を確実に成 に存在しないと考える。 今後もあらゆ 次期







就学援助費の入学前支給を

入学前に支給できるよう 規則の一部改正に取り組んでいる



建文議員 吉村

伺う。

前支給について、

町の対応を

就学援助における入学

福田、津森校区に各10戸分、

馬

者に対し、就学援助費を入学 かわる費用についても今回の いる。また、入学前支給にか 前に支給できるよう、規則の 部改正に向けて取り組んで 平成30年度入学予定

補正予算に計上している。

針について 680戸供給する方 災害公営住宅を

あたって、透明性は確保され ているか、また、土地取得に を伺う。土地はどれ位確保し ているのか伺う。 とのことであるが、町の方針 会からの報告で680戸必要 詩村 災害公営住宅検討委員

に供給方針を示した 検討委員会の意見をもと アンケートの調査結果と

町長 供給する方針を示した。飯野 と、災害公営住宅検討委員会 の意見をもとに、680戸を る第2回アンケート調査結果 住まいの意向等に関す

> 算出し、 を有する鑑定士が、近隣の取 ている。木山校区については、 を批准する方式で行っている。 価などから基準となる価格を 引事例や国土交通省の公示地 定の方法としては、国家資格 契約までは至っていない。算 約120戸分の確保を予定し 安西校区に来年一月末ごろに 水と安永に約150戸分、広 各筆の個別的な要因

> > 町長 の使い道について伺う。 配分される17億3900万円 益城町平成28年熊本地 県の復興基金から町に

つけて実施していく。 る事業を精査し、優先順位を 方々の要望等が寄せられてい 震復興基金を設置し、町民の

ら12カ所に減少し、 吉村 町の投票所が20カ所か 今年の衆





元気に登校する小学生

いきたいを験別していまった。 件発生しているので、 かかわるような事故も例年数 町長 スズメバチは、 慮したうえで前向きに検討し いての補助は、要件等も考 駆除に 人命に 助

ていきたい。

のか。 あった。 と県全体で下から3番目で 今後の改善策はある

票所の増設、投票時間につい 改善は必要と考えており、 として、 ても検討していきたい。 有権者の投票環境の 町選挙管理委員会 投

ヘズメバチの単 ズの

ものか伺う。 スズメバチの巣の駆除につい 吉村 町として補助ができない 今年数多く発生した、

災復興には莫大な財源の確保が必要だ や県に対しどのような要望をしていくか

を求める

貧困の世代間連鎖をなくす



榮

正敏議員

題になっている。

の実態と現状把握は 増え続ける子どもの貧困

今子ども達の貧困が問

関を受診できなかったり、食费 るのか伺う。 実態・子どもに対する対策はあ 増えている、この目に見えない すると、貧困所帯は、 帯の抽出調査を実施し、 ところで増え続ける貧困家庭の 就学児童は減少してるが、就学 体の平均より倍以上多かった。 ると回答した所帯の割合を比較 支払いが滞ったりした経緯があ を切り詰めたり、税金や家庭の 援助制度の受給者はなぜか年々 今年の夏、小中学生がいる所 回答者全

小さな胸の鼓動

を

を救う手立てはないか。 度より増えて1785人いる。 1.5倍に急増、 知件数と推移」過去10年間で 行き場を失っている子ども達 な胸の中で悩んで、苦しんで、 係は不明としているが、小さ 校児童生徒は、200人前年 この事象は震災との因果関 子どもの「いじめの認 また県内の不登

きである。 と走り出すが、我々は、未来 機によるハード面の復旧復興 をもっともっと丁寧に聞くべ 達のソフト面の胸の内の鼓動 を背負っていく小さな子ども 震災と言えばすぐに大型重

生活の支援、保護者に対する

27年3月に策定し教育の支援

柱として貧困が世代を超えて 就労支援、経済支援を4つの 子どもの貧困対策計画を平成 を超えるとの報告があった。 ひとり親家庭については5割

によると子どもの貧困率は7

今年6月厚労省の発表

人に1人が貧困状態にあり

困対策に取り組んでいる。 連鎖しないよう、子どもの貧



益城の未来をお願い

題解決に取り組んでいる。 その情報を全職員で共有し課 など子ども達の実態を把握し、 やな思いをしたことはないか」 に心のアンケートを実施して んでいる。各小学校で定期的 の中で子ども達の心のケアを か」「いじめられてないか」「い 大変重要な課題として取り組 「生活面での困ったことがない

きる環境づくりに努めていく いながら元気で明るく登校で よる全員研修などを実施し一 資質向上に向けた大学教授に 援推進会議の実施、教職員の 人ひとりの子ども達に寄り添 また町の子ども達の自立支

復興財源の確保は

らない。今後厳しい状況の中 県の各課にお願いしなればな 関に出向き国会議員と折衝 くか非常に大事である。霞が をどのようにして確保してい 今後復興に対する財源 教育長の見解を伺う。 この恒久的な問題に対する

心のアンケートの 実施

生活環境は大きく変化した。そ 教育長 震災以来子ども達の

復旧、 要望活動を行い、国や県に対 を強く訴えてきた。その結果 付税などの措置も重ねて各省 いた。今後も機会あるごとに 政制度の拡充を図っていただ いくつかの補助制度、地方財 長と合同で幾度となく要望を 対し単独で、さらに近隣町村 国の財政支援も必要だ。国に し財政支援求めるが、 復興への取組みの支援 困難な状況にある町の



庁の役人と折衝を重ねてい 国の交 復旧へ向けて解体が始まる益城町庁舎

乗り切るか町長の施策を伺い でどのようにしてこの難局を

の財政支援が急務だ

状況に直面していることから

当然財政は大変苦しい

害公営住宅と定住促進事業の 連携について

興の状況や社会情勢を 施策を実施 考慮の上、



利久雄議員 下田

下田 促進事業の連携 災害公営住宅と定住

が確定していない。一方で、 ているが、残りの380戸に の300戸については災害公 2回目のアンケートの結果! 進事業との連携を考えてはい 営住宅検討委員会で協議され 望者も多い。この際、定住促 定住促進事業への土地提供希 区では地価に大きな差があり 定住促進事業地区と市街化地 ついては具体的な場所と戸数 上の680戸となった。当初 入居希望者数が当初の2倍以 災害公営住宅について

制度を活用する 要件を満たせば補助する

を考慮の上、施策を実施して 変えると町民の町外流出の防 いきたいと考えている。 復旧・復興の状況や社会情勢 活用していきたい。あわせて 件を満たせば補助する制度を や目的があるので、一定の要 止策ともなり、 者支援策の一つだが、 面もある。それぞれの役割 災害公営住宅とは被災 定住促進策の 視点を

てはいかがか。

取りを決めている。益城町も 下田 アンケートばかりではなく、 ダーシップをとって場所や間 た多賀城市では、 先日の議員研修で行っ 市がリ

町主体で災害復興住宅を建て

て定住促進事業と兼ねて進め

うことがないようにやってい しながら、 希望戸数などをしっかり検討 かという話もあるが、やはり 担当課で決めてはどう 無駄な補助金を使



ど利用されていない。一方で ついては津森区長会より2度 理教室の部屋を会議室に改修 ため、現在利用できるのは の場所に1部屋提供している ると思う。小学生の学童保育 れており多くの方が利用され 災害時の避難所として指定さ きたが、ここ20年近くほとん 善を目的として作られ、地域 の部屋は、当時の食生活の改 題が出てきている。料理教室 現在の状況やニーズにより課 ほど要望書が出ている。 していただきたい。この件に の方が利用できるように、料 状況である。これからも多く あり、部屋数が不足している ホールと和室の2部屋のみで の健康増進に大いに寄与して て、建設から30年以上経過し

改修工事について 津森公民館分館の

津森公民館分館につい

うに改修しているところであ う声も出てきている。このこ り中会議室を津森小学校の児 る方法で、 をかぶせて机の機能を持たせ 設置するとともに調理台に蓋 年2月に調理教室に空調機を とを踏まえて、 利用者が重なり、不便だとい 童クラブが使用している中で 室があるが、平成26年4月よ 会議等もできるよ 町では平成28

るが、 面改修はできないのだろうか だきたいと思う。 山 機能上使いにくい。 確かに蓋をかぶせてあ 今後検討させていた 全

改修している机の機能も持たせる方法で

以上経過している。大会議室 和61年1月に建設され、 中会議室、 津森公民館分館は昭 小会議室、 調理教 30 年

興基金の益城配 3900

方 円

基金を活用し、賑わい活気ある町に戻すために 精神的な自立や再建を手助けできる支援を 基金を活用し、

重点的に活用し取り 組む 優先的、



幸輝議員

17億3900万円の配分が決 の復興基金から益城町への うな財政状況の中、 が明らかとなった。このよ 円の財源不足が生じること 毎年6億~10億円、合計24億 渇し、平成35年度までの間に かれ町の財政調整用基金は枯 りを行うとしても、早かれ遅 の見直し及び施工時期の先送 れた。財源不足への対応策と 城町中期財政見通しが報告さ して復旧事業を中心に、事業 9月、今後5年間の益 熊本県

ニーズや、 災者の方々のきめ細やかな されるものである。 が、工夫次第では非常に自由 ならないこと等の制約はある がすでに制度化した事業と重 **度が高く自治体の活用力が試** 金であり、 していくために創設された基 国の支援が行き届かない被 国の補助事業や県 地域の再生に対応

く直面してきた分、あれが足 こそ様々な問題や課題に数多 体が大きく被災した。だから 熊本地震において益城町全

が、どのように認識しているか。 災者支援関係においてはまだ 支援事業が必要であるとの思 者救済のためにはこういった りないこれが足りない、 まだ十分な支援が必要と思う を考えているのか。また、 てどのような分野での利活用 いが強いと思うが、大枠とし 被

ど県内統一ルールに沿っ町民の方々からの要望な

がら、それぞれ重点的に予算 い。平成30年度までの復旧期 つの区分に沿って実施した り・産業特産振興に整理しな 発展期は新たな観光拠点づく の復旧支援を、35年度からの 共施設コミュニティー施設等 建について、平成34年度まで 宅地の復旧支援・住まいの再 は、被災者の生活支援・被災 事業を県内統一ルールの6 から要望など寄せられている る。町としては、町民の方々 ら基本的な考えも示されてい 町長。活用については、県か の再生期は防災安全対策・公

金活用については、復旧期に また被災者支援関係への基

を、 ている。

要望など寄せられている事業 とあるが被災による弱者の 上村 活用は町民の方々から 様々にあると思う。小さな声 方々の大きな声や小さな声

耳を傾け、 ういった声にも誠意をもって 復旧業務支援業務の中でそ 気にとめていただ

えはどうか。 助けできるような支援策の考 再建が大事だと考えるが、 いった、気力の再生・精神的 分の足で立ち上がるぞ」と し、もう一度頑張るぞ」「自 また、被災者の方々の「よ 丰

民間等と協働で支援 を行っていきたい

理していく。後押しをする制 本的な考えや手順に沿って整 な事業にもかかわらず支援制 度がないものについては、基 談を受けた内容で、真に必要 町民の方々などから相

住まいの再建に該当する事業 活支援、被災宅地の復旧支援 したい。その中で被災者の生 緊急の課題として認識し 重点的に予算を配

きたい。 の中にも正解はある。

> 間等と協働で支援を行ってい 的な再建等については、地域 度としては住まいの再建が きたい。 支え合いセンターを中心に民 も重要だと考えている。精神

るため一部民間借り上げで にお願いしたい。 描けるような事業の展開を切 を見据え、安定した未来像の な支援事業と併せ、 たい。被災者に寄り添う十分 補助事業等ぜひ検討いただき 担っていただくための建設費 の町直接整備戸数を極力抑え めの補助事業。災害公営住宅 での再建でなくこの町での自 等の初期費用補助事業。町外 住宅入居世帯に対しての敷金 業の提案であるが、 力住宅再建を奨励し、促すた 上村 復興基金を活用した事 町の将来 災害公営



住宅の自力再建も少しずつ進む

益城中央線4車線化の 町の対応は

かり と対応する



公也議員 竹上

線は、 ターや、熊本空港にも直結で 生活の絆であると思う。 は人間生活の上で欠かせない 接に関係を持つとされ、道路 思想など、 活物資の輸送から始まるが、 わろうとしている。道路は牛 機能を備えた道路に生まれ変 きる熊本都市圏道路としての 道路交通は社会、政治、文化 九州縦貫道路益城イン 都市計画道路益城中央 あらゆる問題が密

が、町が将来に向け最も実の ある復興をとげるように、町 うに考えて行かなければなら として最良の手助けとなるよ この道路の主体は県にある

うに考えているのか伺う。 するバックアップを、どのよ 町としては、引っ越し先の選 難しい問題が出てくると思う。 りの生活スタイルが違うため 交渉にあたっては、一人ひと 定や土地探しなど、町民に対 日を送っていると思う。用地 沿線で暮らす住民は不安な毎 渉が進んでいくのか、 今後どのような形で用地交 益城中央線へ接続し 道路の

断歩道や通学路や安全標識 が町の対応はいかがか。 生活環境の整備が必要となる しが悪く安全性にかける。横 ている町道の交差点は、見通

アップ対応について

民に対するバック

町と県で一緒 やってい

と県で一緒になってやってい るので、 旋が必要な場合は情報提供を おこない個別の事情も多くあ り収集し、県へ報告し、個別 交渉の中で、移転先などの斡 方々の情報を町でも出来る限 代替地を提供出来る しっかり対応し、町

が整っている。 構造を基本とすることで協議 円滑な交通の確保を考慮した 歩行者及び車両の安全確保、 る町道取り付け部については また、益城中央線へ接続す



高森線広崎付近

費用はどのくらいか。

の菅波茂氏がテント村をつ 岡山県総社市町長の片岡聡 泊を余儀なくされた。エコノ 場が車で埋め尽くされ、 避難所に指定されたが、 方々が被災し、総合体育館が ために、登山家の野口健氏 ミー症候群などの発生を防ぐ そしてNPO法人アムダ 車中

571名を車内のつらい思い の選定には問題はなかったか 7~8名の職員の応援と、ア による熱中症などの心配があ また、修理はいつになるのか 競技場の機能を失った。場所 を決めた。この間総社市より 修理を行い体育館内への移動 り、メインアリーナの天井の 雨季になれば、河川水の流入 から開放し、自由を取り戻し に杭を打ったため、 たった。しかし、グラウンド つけテント村の健康管理にあ ムダからは医療チームが駆け 台風によるテント災害、暑さ た感はあったと思う。しかし 競技場にテント156張り 公式認定

陸上競技場の整備について

との合意のもとである。 くった。益城町長と総社市長 熊本震災では、多くの

となるが、今の時点では明確 り終了後、発注、契約、着工 設計内容について協議中であ 整備については現在、国と

そのうち99・1%を国費で賄 である。 の交付税措置を受ける見込み あて、充当率100%で95 う。残り09%について起債を 費を5億円と見込んでいる。 費用については、復旧工事

99・1%を国費で賄う

教育長 テントの杭を打った

されていると判断されれば、テ 月19日の時点で確認している。 数発生し、機能が失われた。4 記録した2回の地震と、余震で の直接原因ではなく、震度7を 事が公認陸上競技場の機能喪失 いないと思う。 公認競技場としての機能が保持 舗装面の亀裂、隆起、凸凹が多 ント村を開設する場所とはして

震災後の対応と検証結果について

検証報告書の公表 熊本県や執行部との連携



祐士議員 野田

野田 与えたことへの対応の検証を 震災対応とその検証

震災後、

住民に不安を

どう行ったかと、その検証結 町長自身の決断力不足や民間 果について伺いたい。また、 業者への対応について、感じ ることがあればお聞かせ願い

ホームページで公表 検証結果は

確保に努めていきたい。 災により町からの情報が届か ことの最大の要因は庁舎の被 ている。町民に不安を与えた 改善の方向性を詳しく記載し リングなどを実施し、課題の る。検証はアンケートやヒア ホームページ上で公表してい よる対応の検証報告書」を 震化、新たな情報発信手段の なかったことにある。今後は 情報系サーバーのさらなる耐 平成28年熊本地震益城町に 検証結果については

ために開放しなかったことに より、 総合体育館を二次災害防止の 決断力不足を指摘されたが 本震での崩落での危険

> だろうか。解体ごみ処理問題 分析していただきたい。 要なことである。非常時こそ 行政のプロとして厳しく自己 住宅の場所など災害を含めた 罹災証明の発行の遅れ、仮設 ことは次に生かすためには重 を回避できた例もある。 (間力が試されるのではない 自己分析を厳しく行う

り考えながらやっていきたい。 己分析は自分の中でもしっか 様々なことが求められる。自 防災や派遣、避難勧告など ども入れている。トップには 検証結果に自己分析な

木山交差点の民有地 処分につい

野田 う考えているか。また地権者 会の判断の対応について、 書によって精査させていただ えているか。 なったが、この責任をどう考 からの交換の対応も必要と 今後、議長からの報告 議会100条調査委員 "للے

野田 整理の土地交換について、公 きたい。 合、どう責任を取るのか。 有地の代替地を求められた場 県道の4車線化や区画

野田

先日の臨時議会で益城

町長 考えている。ケースバイケー スで対応していきたい。 いないが、適切に対応したと

政治手法について 町長の判断能力と

うか。 野田 である。熊本県には感謝して 主導になっていることが残念 を優先させていくお考えだろ いるが、どうやって町の利益 ダーシップ不足により熊本県 震災後から町長のリー

進んできた 熊本県と一緒になって

と一緒になって進めてきたと ていくと考えている。 と執行部が両輪となって機能 整理事業についても、熊本県 寄り添い、一生懸命取り組ん してこそ町の発展につながっ いう認識である。また、議会 われたが、復興課をはじめと 対応や被害状況の把握等に追 できたと自負している。区画 した体制作りも早急に実施し 町長として町民の皆様に 震災直後から避難所

報告書はまだもらって

どのような理由だろうか。 町長これまでの経緯もあり、 日に取り下げられた。これは 菊陽線の町道認定の案件が当

り下げを行った。 ていくと考えている。 あり、町の利益にもつながっ ていくのが町としての務めで いという認識を持ったため取 議会との調整がまだ終わらな 県と町の約束の事実があった。 熊本県と連携しながら進め

関係住民の理解を得ることが 町の重要な仕事ではないか

町が前面に出ながら県と協働で事業に 取り組んでいく



健

用していきたい。

二議員

の方法は 活断層の保

管理

けるであろう活断層3か所の 中村 天然記念物の指定を受 受けると、どのような支援を 保存と管理はどのように行う また、天然記念物の指定を

受けられるのか。

協力を得ながら進める 管理は地域住民の理解と

あり、 行っていただくことが最良の 況により顕著に表れるもので の横ずれは、農作物の生育状 を使用した方法を考えている を防ぐために樹脂等の凝固剤 保存方法と考える。 表出しているので、経年劣化 については、地面に立体的に 堂園地区畑地の2.5メートル 所有者に通常の営農を 杉堂地区と谷川地区

助があり、 に8割の国庫補助がある。 受けると、 ている。天然記念物の指定を 活用すると補助率10割となっ 震災遺構の仮保存支援事業を 仮保存の経費については、 観察道路や看板、 いろいろな経費等 史跡等購入国庫補 説

子校等の公共は の

体後、 ないか。 学校などはできるだけ早く、 安全な場所に建設すべきでは 復興のシンボルとなる役場や いるが地盤は大丈夫なのか。 現地建て替えとなって 役場、 益城中学校等解 うなので、これらの補助を活 年、特別交付税措置もあるそ いても5割の補助、ほかに毎 名看板等を設置する経費にお 町長 考えていたが、防災の拠点と か交付税の期間とかを考える 役場建設は一番最後と

県道の4車線化、

事を実施する予定である。 ら平成33年度にかけて新築工 て頂きたいと思っている。 うことで、場所なども建設検 と、早めに決めなければとい 工事を開始し、平成32年度か 定し、平成30年1月から解体 討委員会でしっかりと精査し 益城中学校は来年度から解 新庁舎建設は基本計画を策

4四半期から新築工事を実施 する予定である。 体に着手し、平成30年度第

解体後、4階建てになる予定だが、おおくの町民が望む、有事の際 の防災拠点となるだろうか

要な仕事だと思うがいかがか。 町の仕事か。そうではなく町 渉にも対応できるよう進め 望者の三者契約による用地交 熊本県と共有して、代替地希 事業の移転先としての情報を 出してある箇所を調査して、 いる。 交渉を熊本県と合同で行って の理解を得ることが、町の 整えること、つまり関係住民 めるための準備をしっかりと こと、そして、この事業を進 ることができるのか見極める はこの事業がしっかりと進め 業について、町は都市計画の 地区の区画整理事業この2事 事業認可を取るだけが また買取り申し出が提 県道事業は現在、用 重

事業では、町は用地先行買収 予定としている。 復興土地区画整理事業町づく 表者からなる仮称「益城中央 んでいく。また、関係住民代 県と協働でこの事業に取り組 今後も町が前面に出ながら、 などの意向調査を進めており、 連絡協議会」を立ち上げる 木山地区復興土地区画整理

気溢れ

を

震災から1年8ヶ月 復旧・復興の勢いが感じられない

ずつではあるが 活気ある活動が生まれて



金次議員

月が過ぎ、 町民の活気溢れる生活を取り が感じられない。町長として ちこちで見られるようになっ 道路や上下水道もかなり復旧 戻すための政策について伺う。 たが、町としての勢い、活気 工事がなされ、新築の家もあ 熊本地震から1年8ヶ 倒壊家屋も撤去

継続させたい 応急仮設団地での活動を

ではあるが、活気ある活動が 運営や応急仮設住宅の建設を 域で継続され、更にこれまで での活動が生活再建後の各地 生まれている。 の支援が遅れたが、少しずつ 優先したため、 に地域の行事も再開されてい 震災直後は、避難所 仮設店舗など 特に仮設団地

するため、摩擦が生じて時間 が余りにも遅すぎる。その原 因は国や県に頼り過ぎてその 施策を町として咀嚼せず実施 に比べ、復興復旧のスピード ため時間がかかり、更に県の 我が町は周りの市町村

> いため、 から1年以上遅れている。そ 周りの町に比べ、復旧が半年 最も必要とするのにそれがな でいる事は何だと思うか。 こで町長は今町民が一番望ん を要している。 特に今回のような非常時に 町長のリーダーシップを 業務に時間を要し、

と考えている。 0人の方を元の生活に戻す、 れる2800世帯、約750 生活再建が町民の一番の希望 仮設で生活されておら

ド感ある復旧復興だと思う。 また、近い将来町の財政は破 町民の希望は、スピー

町の組織を含め抜本的な見直 の財政改善策を伺う。 財政改革は絶対必要である。 も達にツケを残さないために は困難だと思う。そこで町長 しかし職員出身の町長には、 たんする恐れがあるが、子ど しのために大ナタを振るうの

復興が早かったと思う。 張ってこられた人達の方が、 行政に頼らず軒先で頑

覚悟でやっていく。 業の先送りや凍結等身を切る 見積っており、 から10億円くらい不足すると 町の財政も今後、年間6億 国の補助金の研究、 職員の意識改 事



復旧がまたれる辻の城の国道沿い

の配分予定を伺いたい。 現況や町民への広報及び今後 て大変感謝しているが、その から心温まる義援金が贈られ 熊本地震を受けて全国

義援金につい

です。 は、4億7120万円でこ 10億9065万円で、この内 の内4億2940万円を配 在で県から受けた義援金 町 残りが4180万円 平成29年12月1日 が直接頂 いいたの 現

> 町災害義援金配分委員会で検 今後の義援金の配分は、 残り3億684万円となって 7億8381万円を配分し、 の監査委員により実施するよ 広報及びホームページで通知。 更に義援金の監査は、 町民への広報は、益城 益城 町

う検討したい

市を視察しました。東松島市は航

成

た宮城県、

東松島市と多賀城

0)

2 日

目は災害公営住宅がほぼ

完

東日本

〜宮城・福島議員研修〜

受け、 場職員の方々は、この町が存続 と化していました。その中で町役 の家が住民不在のゴーストタウン 運ぶトラックがほとんどで、多く ました。 年の3月に帰還困難区域の解除を 3重の被害にあわれた所です。 力で取り組んでおられました。 の17%にしか過ぎない状況であり た。震災前の人口21、434名 住民の方々は380名前後でし 震災で地震・津波・放射能汚染と 町は、平成23年3月11日の東北大 町の視察研修を行いました。この ました。 島・宮城両県への議員研修を行い ましたが、 きなのか自問自答する形ではあ 平 成 の警察車両と汚染された土を 現 29年11月13日 町内を走る車は県外ナン 初日は福島県双葉郡浪江 在町に帰還されている 町の再建に向けて全 15日まで福

> 0 空自衛隊ブル の36%が浸水しました。 超える高さの津波に襲われ、 も震度6強の大きな揺れと10mを ある所でも有名です。 ーインパルスの基 東松島市 市内 地

屋が被災しており、 害額は約669億に上ったとされ 10、077棟と全体の74%の ています。 被 死者は1100名を超え、 害も全壊・大規模半壊 公共施設の被 家 で 家

屋

災害公営住宅を視察しました。こ 住宅建設に生かしていきたいと思 れから取り組む益城町の災害公営 いました。 様々な意見交換をおこなったあと 市役所で災害公営住宅について

した。 集合住宅より戸建ての住宅を多く した。また多賀城市は東松島市と の災害公営住宅が多く建設されま 住民の方々の総意として、 東松島市は、 方が希望されたとの事でありま 元々、 漁師さん達が多く、 漁業が盛んな所で 戸建て



集合住宅と戸建住宅が一ヶ所に集約されていた東松島市の災害 公営住宅



災害公営住宅建設の経緯と運営について説明をうける(多賀城市)

ましたが、この研修を経て町 地震を、 れていました。 機構による住みやすい住宅が作ら 有意義な研修となりました。 めて決意したところであり非常 復旧・復興に向けて全力で取り組 ていることもあり、 んでいかなければならないと、 2回も受ける被害に遭 益城町も震度7の UR 都市再

0

改

がそのほとんどで仙台市に隣接し

生

の災害公営住宅よりも、 は状況が全く違っており、

集合住宅 戸 建

広報委員 下田利久雄

《12月議会での主な議案への賛否の状況》

_																	_		_	
	事 件 名	結果	上村 幸輝	下田利久雄	冨田 德弘	松本昭一				野田 祐士		坂本 貢	寺本 英孝	み		中村健二		渡辺 誠男	荒牧 昭博	養稲田忠則
	議員提出・進路整備事業に係る補助率等のかさ上げ措置 の継続に関する意見書	可	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	欠	0	0	0	0	
	平成29年度益城町一般会計補正予算(第6号)	可	\bigcirc	0	\bigcirc	0	0	0	\bigcirc	0	\circ	0	0	0	\bigcirc	\bigcirc	0	0		_
	平成29年度益城町国民健康保険特別会計補正予算(第3号)	可	\bigcirc	0	\bigcirc	0	0	0	\bigcirc	0	\circ	0	\circ	0	\bigcirc	\bigcirc	0	0		
	平成29年度益城町介護保険特別会計補正予算(第3号)	可	\circ	\bigcirc	0	0	0	0	\bigcirc	0	0	0	0	\bigcirc	\bigcirc	0	0	0	\circ	
	平成29年度益城町公共下水道特別会計補正予算(第3号)	可	\bigcirc	0	\bigcirc	0	0	0	\bigcirc	0	\circ	0	\circ	0	\bigcirc	\bigcirc	0	0		
	平成29年度益城町農業集落排水事業特別会計補正予算(第2号)	可	\circ	\bigcirc	0	0	0	0	\bigcirc	0	\circ	0	0	\bigcirc	\bigcirc	0	0	0	\circ	
	平成29年度益城町水道事業会計補正予算(第3号)	可	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	\circ	
	益城町一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正 する条例の制定	可	0	0	0	0	0	0	\circ	0	×	×	0	0	0	0	0	×	0	_
予	益城町一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例の制定	可	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
算	益城町「平成28年熊本地震」復興基金条例の制定	可	0	0	\bigcirc	\bigcirc	0	0	\circ	0	\circ	0	0	0	\bigcirc	\bigcirc	0	0	\circ	_
条	益城町企業立地の促進等による地域における産業集積の形成及び活性化に関する法律第10条第1項の規定に基づく準則を定める条例の一部を改正する条例の制定	可	\circ	0	0	0	0	0	\circ	0	\circ	0	\circ	0	\circ	0	0	0		
例	益城町都市公園条例の一部を改正する条例の制定	可	\bigcirc	0	\bigcirc	0	0	0	\bigcirc	0	\circ	0	0	0	\bigcirc	\bigcirc	0	0		_
等	益城町課設置条例の一部を改正する条例の制定	可	\bigcirc	0	\bigcirc	0	0	0	\bigcirc	0	\circ	0	\circ	0	\bigcirc	\bigcirc	0	0		
	指定管理者の指定の期間の変更	可	\bigcirc	0	\bigcirc	0	0	0	\bigcirc	0	\circ	0	0	0	\bigcirc	\bigcirc	0	0	\circ	
	木山交差点の私有地開発に絡む益城町文化会館第二駐 車場との土地交換に係わる疑義の調査報告	可	\circ	0	0	\circ	0	0	\circ	0	\circ	0	\circ	0	\bigcirc	\bigcirc	0	0	0	
	工事請負契約の締結	可	0	0	\bigcirc	0	0	0	\bigcirc	0	\circ	0	0	0	\bigcirc	\bigcirc	0	0		-
	工事請負契約の変更	可	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	\circ	
	物品の購入	可	\circ	0	\bigcirc	0	0	0	\circ	0	0	0	0	0	\bigcirc	\bigcirc	0	0	\circ	
	教育委員会委員の任命同意	可	0	0	0	0	0	0	\circ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	人権擁護委員の推薦につき意見を求めること	可	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	\circ	
	西村博則町長の不信任決議	否	0	0	×	×	×	×	×	0	0	0	×	×	0	0	0	0	×	×

×:反対 棄:棄権 欠:欠席 可:可決 否:否決 裁:議長裁決 ○: 賛成 ※議長は賛否同数の場合を除き、通常の採決には加わりません。

議会広報編集特別委員会

委員長 中村 健二 副委員長 坂田みはる 委 員 榮 正敏 委 松本 昭一 員 委 員 下田利久雄 委 上村 幸輝 員

復興の足音が聞こえるまで。 状況を踏まえて頑張って行かな 状況を踏まえて頑張って行かな ければならない。 け状手町 榮 敏

文責

莊

している。

している。

している。

している。

している。

にはまざるを得ないが仮設住宅に住まざるを得ない

後興整備、商工業の皆さんの住宅地の整治実に進んでいる。

中でも認可された県道熊本高中でも認可された県道熊本高中でも認可された県道熊本高本線の4車線化や、今町民の関本を集めている益城町役場を中心とした、木山地区の区画整理心を集めている益城町の百年のを生た、今後の益城町の百年のを生た、本山地区の区画整理人でいる。

がる。 おける非常に大事な時局に直面私たちの町は子ども達の将来に復旧・復興というなかで今、

記集 すぐ2年がたとうとしてか分」あの震災から、もうるの震災から、もうの震災から、もうのでは、1年16日午前1時25

熊本地震と老人クラブの

議会広報長崎県時津町に学ぶ

議会広報編集特別委員会

坂田みはる

益城町老人クラブ連合会 会長 稲塚 武俊地域福祉活動

で成28年4月、思いも寄らぬ熊本地震が私たちの郷土を襲い、幸福な家庭、美土を襲い、幸福な家庭、美土を襲い、幸福な家庭、美いの郷土をを嘘と化してから、はや2年になろうとしております。

上げます。 上げます。

私たち老人会には、全国老人クラブ連合会のご配慮かけられた救援拠金活動で、かけられた救援拠金活動で、かけられた救援拠金活動で、かけられた救援拠金活動で、

益城町老連にも多額の拠金をいただいたところであり、全国の老人クラブ会員の強く国の老人クラブのがます。心温まるご配慮に、がます。心温まるご配慮に、

益城町老連では、この拠金を有効に活用するために金を有効に活用するために地方の会員との交流事業を開催し、自立支援促進援助事業のほか、シルバーヘルの1における友愛活動事業の活性化と老人福祉の向上事業に向けて 取り組んで事業に向けて 取り組んでおります。

全国の老人クラブの皆様を強いでしょうか。お互い手を取り合って頑張りましょないでしょうか。お互い手ないでしょうか。お互いが、ないでしょうか。お互いが、ないでしょうか。お互いが、ないでしょうか。お互いが、ないでしょうか。

には広報誌発行議会開催翌月の15日

は、去る平成29年10月25日は、去る平成29年10月25日長崎県西彼杵郡時津町で議会広報誌研修を行いました。 会広報誌研修を行いました。 時津町では、昭和56年3月定例会から「とぎつ議会だより」が発行され、平だより」が発行され、平だより、平でで、田和56年3月定例会で既には29年9月定例会で既には29年9月定例会である。

広報委員7名は、町民が まれる」議会広報を目指し すく、わかりやすく、親し まれる」議会広報を目指し ておられるとのことでした。 また、一般質問と答弁の また、一般質問と答弁の かりやすく簡潔に編集する かりやすく簡潔に編集する

成させて発行されています。

表紙写真、一般質問、記事、写真、レイアウト、校正、また、内容等のチェック全また、内容等のチェック全てを広報委員で行っていることは、当委員会と同じでしたが、時津町では、一般質問が終った日に質問書と答弁書を受け取り、再質問答弁書を受け取り、再質問を介書を受け取り、再質問との説明でした。

そこには一般質問をした

議員の理解も必要であり、 を員会として公平かつ中立 でるのではないかと感じま いるのではないかと感じま した。

研修となりました。
今後の検討課題を見つける
を目指すことは、私たちの
内での発行をされている点



両町の広報委員会メンバーと共に

益城町立 広安西小学校

熊本地震発生後、 ち早く元

、観衆の中で、 渇い 中庭を埋 た心に 平成 ムコ

また、

ダ

のシンガーソングライター 潤いを与える「広西ドリ 28年4月29日には、 けたのは吹奏楽部でした。 気な姿で地域の皆さんを勇気づ ひらりさんとの共演も果たしま う力を与えてくれました。 ンサート」で感動と復幸に向 その後も、 新潟県出身の盲目 -佐藤

平成29年11月には

九

州

北部

きました。

0)

願

いを肌で感じて

市民パ

ワ か

さんのジュピター 火に込められた、 よる復幸へ て打ち上げられる色鮮や

中

の曲に合わせ

倉市の 力で被災地支援に貢献しまし 雨 の被災地となった福岡 久喜宮小学校でも、 県朝 音楽

益城

の復幸に向けた将来の担



笑顔のピースサインは友情を育みます

規模で行われる新潟県長岡花火 大会の観覧に18名が参加しま 越地震を機に、 研修では、 8 月 0 第2 全国 回広西 平原綾香 有数 小

> ます。 情報 湧出に着目した環境保全活動と 方、 手が育つものと信じています 0) 発信も高い 益城ならではの 評価を得て 地下 水

した。 防災の必要性を呼びかけてきま コ で環境大臣賞を受賞すると 成 クラブ全 29年3月には、 熊本地震の経験を元に 国 Iフェ ステ こど イ



東日本大震災を経験し、再び益城町での大震災を経験したことを 語る児童

実行委員会特別賞を、

環境フ ド で 連

○と×」では小学生部門で金賞

コンテスト「わたしのまち

0

グ

ッドライフアワー

また、

12 月に は、

環境省関

ます。 が周りに元気と勇気を与えて 広安西小学校校長 力強く生きるこどもたちの活躍 を受賞しました。 熊本地震の経験をバネにして 井手



グッドライフアワードカンファレンス&表彰式